

令和4年度 校長より ⑦

9月10日(土)に、第35回六国祭(体育祭)が開催されました。今年度の来場については、本校保護者とその家族2名までとして制限させていただいていましたが、当日は1,000名を上回る方にご来場いただきました。また、今年度は一般公開として、本校入学希望の中学3年生とその保護者で観覧を希望される方(100組200名)にもご来場いただき、本校の雰囲気や生徒の様子などをご覧いただきました。開会式では、各カラー団のパネルが披露され、その後の競技では、伝統の応援合戦、チアリーディング、仮装のほか、659走、綱取り、カラー対抗リレーなどが行われました。生徒たちは、各競技に真剣に取り組むとともに、夏休みを通して練習してきたそれぞれのパフォーマンスを全力で演じていました。

特に今年度からは、応援合戦とチアリーディングにおいて出場者の性別が撤廃されたため、双方とも例年とは異なった雰囲気となる中、工夫された構成により特徴的でインパクトのある表現が演じられました。校長としては、生徒たちが六国祭にまた新たな伝統を築いてくれたとともに、本校におけるダイバーシティの取組を生徒たち自らが推進してくれたことに、感謝と敬意の念を強く抱かせていただきました。本校のスクール・ポリシーには、「多様性を尊重する姿勢を育む」ことも掲げられています。このことを念頭に置きながら今後も教育活動に取り組んでまいります。

なお、今年度から、六国祭における開会式や閉会式における校長等の挨拶や講評を取りやめることといたしました。これは、そもそも生徒会活動は生徒による自治活動であること、また、本校のグランドデザインやスクール・ポリシーにある「主体的に考え行動する力」を生徒たちに身に付けてもらうには、生徒たちが主役となって活躍する機会をできるだけつくる必要があること、つまり、自分たちで考えて行動し自分たちで振り返る経験を積ませる必要があると考えたことからです。加えて、この4月から成年年齢引き下げがスタートしたことで、高校3年生は誕生日を迎えた日から成人になる、つまりは、これまで以上に今の高校生には自立心を持って生きていくことが求められる時代となったことからです。今後もできる限り、生徒が主役となる教育活動を推進してまいりたいと考えておりますので、保護者の皆様におかれてはご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

閉会式後、夕方からは後夜祭が、夕暮れからは打ち上げ花火が行われました。生徒たちは、後夜祭では、軽音楽部や先生、生徒のパフォーマンスなどにより六国祭の余韻を楽しんでいました。打ち上げ花火では、花火が上がるごとに大きな歓声を上げながら、今年度の六国祭のテーマ「彩生」を思い浮かべて、その意味(一人ひとりがいつまでも色鮮やかな思い出となりますようにという意味がこめられています。)を噛みしめていました。

保護者の皆様には、六国祭の開催に向けて、生徒の健康管理、準備や練習への援助、衣装や道具の制作、広報のための取材活動、校内環境の保全や整備等、様々なお立場による様々なご支援をいただき誠に有難うございました。皆様のお陰で、生徒たちは全力で六国祭に取り組むことができ、また、コロナによりここ数年間は十分な取組ができていませんでしたが、今年度は六国祭を以前の姿以上に復活させることができたと感じています。この場をお借りして、この度の皆様方のご尽力に心から感謝申し上げますとともに、今後とも生徒たちの活動について、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、六国祭を通じて改めて感じましたことは、大船高校の生徒たちは、本当に素直で真面目で一生懸命で、学ぶ力があり心が立派であるということです。これは、当然のことではありますが、そうした家庭環境に育っているという証でもあります。こうした生徒たちに囲まれていることが当たり前であるものと思うことのないように、校長として今後も気を引き締めて、学校経営に取り組んでまいります。

令和4年9月

神奈川県立大船高等学校 校長 幸田 隆